



代表取締役 **高橋 和義**

さくら株式会社の社長として、会社を牽引する高橋和義。スポーツ一筋の学生時代を経て社会人として世に飛び出し、今日までどのような道のりを歩んできたのだろうか。これまでの足跡をたどる

スポーツに打ち込んだ学生時代

幼い頃からスポーツ万能で、小学校では野球とサッカーに取り組んだ。野球ではピッチャーとキャッチャー。サッカーではゴールキーパーとして活躍。また、流派唯一の男の子として日本舞踊で舞台にも立っていた小学校時代。中学校に進学して、心機一転ハンドボール部の門戸を叩く。秋田の中学ではゴールキーパーだったが、中学2年の11月に仙台に転校し、顧問の勧めでコートプレイヤーにポジションを変えてすぐに、頭角を現したという。ポジション変更から2週間で出場した新人戦で県選抜に抜擢。県選抜でもレギュラーとして活躍した。家庭の事情で幼稚園・小学校・中学校と転校をした経験もあるが、持ち前

の明るい性格ですぐに周囲と打ち解け、友人に囲まれた学生生活を送った。そして、ハンドボールの実力を買われ、指定校推薦で高校へ。

たしかに運動神経はよかったが、努力せずに力を伸ばしたわけでは決してない。現代では有り得ないしごきの毎日を監督・コーチに受けた部活。部活時間以外に自主練習にも積極的に励み、高橋の練習量はチームメイトの2倍を優に超えていた。たゆまぬ努力に裏打ちされた実力で、1年生のうちからインターハイに出場。県選抜のメンバーにも選ばれ、縦横無尽にコートを駆けまわった。

社会人になったものの……

ハンドボール一筋の高校時代を終えて大学へ進学したが、1か月も経たないうちに退学。「これからどうしようか」と考えていた折、友人の父から紹介されて、人材派遣や警備、物流などを取り扱う会社に就職した。大卒や自衛隊出身の同期社員の中、高卒は高橋だけ

ひとり。警備部門に配属されたが、一日中黙って立っている仕事は、高橋にとつて苦痛以外のなにものでもなかった。体を動かしたくて、どんどんストレスがたまっていく。そして入社から教育期間を終え現場に出てわずか4日目、人事部門に駆け込んでこう頭を下げたのだ。

「もう無理です！ 辞めさせてください！」

こうして、紹介で入社した会社をたった10日で退社。友人にも友人の父にも、多大な迷惑をかけてしまった。その後さまざまなお仕事に携わったが、どれも長続きしない。寝坊で遅刻したり、仮病で欠勤したりすることも日常茶飯事だった。

建設業界に飛び込んで

大きな転機が訪れたのは、20歳のときのこと。結婚が決まり、子宝に恵まれたのだ。「父親になる」という事実は、高橋の心を大きく動かした。

「子どもに誇れる人生を歩みたい」「そろそろ親にも心配かけたくない。」

そう考え、飛び込んだのは建設業界。生まれ変わって、新たな一歩を踏み出そう！ そんな気持ちで現場に入ったが、待ち受けていたのは険しい道のりだった。染みついた生活習慣はすぐには改まらず、寝坊を繰り返す毎日。派手な髪型で鼻にピアスをつけ、色つきの眼鏡をかけた当時の高橋は、勤務態度も決して真面目とは言えなかった。ヘルメットの顎ヒモも締めず、指摘されても「日焼けの跡がつくから嫌です」とどこ吹く風。親方に至っては「俺の道具に触るんじゃないやねえ！」と一喝したきり口もきいてくれなかった。

これではいけないと反省した高橋は目の前の作業に食らいついた。少しずつではあるが着実に寝坊の頻度を減らし、与えられた仕事は丁寧、確実にこなす。……

そんな日々を続けて3か月、親方の仕事を見て、次の作業の段取りや現場でのちょっとした気配りが少し出来るようになった。無視を貫いていた親方が、少しずつ言葉をかけてくれるようになった。努力が認められ、誠意が伝わったような気がした。お前と一緒にやると段取りがいいから進みがいいよと言ってもらったことがとても嬉しかったのをよく覚えている。

仕事に「やりがい」を感じ、独立へ

21歳のとき、配管工事の会社に転職。ここで過ごした数年間で、高橋は大きく成長したという。朝6時半に出社し、現場は8時開始。夜10時まで現場作業に励み、帰社してからさらに配管の改造作業……そんな生活が、しばらく続いた時期もある。たしかに疲労は溜まったが、働けば働くほど知識や技術が増えていくのが楽しかった。普段は厳しい先輩からの「思ったより上手にやるじゃん」「お前、意外とやるね」という些細な一言が大きな励みになり、より一層高いモチベーションへとつながった。社会人になって、はじめて感

じる「やりがい」であった。メキメキと力をつけていく高橋の姿は、社内だけでなく社外の目にも留まった。

「君、若いのにすごくよく働くね。」

そんな言葉を自信に変え、25歳で独立。1年間個人事業主として働いたのち、専務取締役の千葉・常務取締役の寺澤らと共に、創業メンバー7人で2012年4月16日、さくら株式会社を設立。新たな挑戦がここからはじまる。

(後編に続く)

企業情報

設立年：2012年4月
年商：608,257,000円
※2020年3月決算時点



拠点紹介

仙台工場編

製品作りを支える仙台工場の魅力とは……？
今回は工場長の大坂様に詳しく話を伺いました！



仙台工場
工場長

おお さか だい すけ
大坂 大輔 さん

主な業務内容とメンバー構成

メンバーは固定されておらず、現場に出していないメンバーが10名ほど週替りで勤務しています。配管工事に関するもの全般、それに伴う鉄骨で組み立てるサポート、また銅管や冷凍機ユニットのように海外に送る製品も作っています。工場長としての仕事は、作業の指示出しや現場で壊れたもののメンテナンスや修理、さらには材料の発注です。現場の職長さんとコミュニケーションを取りながら進めています。基本的には工場に勤務していますが、人手が足りないときには現場に足を運ぶこともあります。

工場があることの強み

現場施工できないものを工場に製品として作り出せることです。現地で作るには限界があるものでも、工場できちんとした製品として生み出すことが可能です。またメンバーが頻繁に入れ替わることから、工場が社内のコミュニケーションの場にもなっています。新入社員も初めは工場に配属されます。

紹介したいメンバー

寺澤 寿洋 常務

ピンチのときには救世主として工場を手伝ってくださいます。気さくで面倒見が良く優しい方で、年上年下に関係なく慕われています。私が知識不足で対応に困っているときには、残業帯に事細かく教えてくださるなど、これまでたくさん助けられてきました。



お客さまからの声

現場のお客さまから、欲しい物をすぐに提供できるそのスピードにご好評をいただいています。また、驚かれるのは製品のキレイさです。例えばステンレス関係の製品を挙げると、現場でたわしのようなもので磨くだけでな

く、設備の整っている工場に酸洗いをすることで、一層ピカピカの製品をご提供できています。

苦労談



自分の知識の範囲を超えた、簡単なようで簡単でないオーダーを月に1度ほどいただきます。そのような場合には、工場にいるメンバー同士で持っている知識やスキルを持ち寄り、試行錯誤をしながら乗り越えてきました。最終的には社長に相談し、アドバイスをいただいています。

工夫していること

仲良く和気あいあいとした工場の雰囲気づくりを心がけています。そのために意識していることは、言うべき場面では指摘をしつつ、社員それぞれが楽しいと感じてやる気を持って行えるお仕事を中心に割り振ることで、各人が向いている作業を見出したり報告できたりする場所であると、尚良いと思っています。加えて、作業効率を上げるために整理整頓を心がけています。使ったものは元の場所に戻すよう、工場内で徹底するようにしています。

今後の目標

自分自身のスキルアップとともに、さらなるチーム力強化に取り組みます。作業ミスを減らし、コミュニケーション力をさらに高めて、より良い製品づくりに努めて参ります。



創刊のお知らせ

この度、さくら株式会社では社内報を発行することになりました！
業務ノウハウや成功の秘訣、今だから笑える失敗談など、取材やアンケートを行い、社内報に掲載します。社内報をきっかけに、社員同士やご家族とのコミュニケーションを増やし、職場の環境改善や生産性向上に繋げましょう！

こんな想いで制作・発行をしていきます

皆さんが会社に誇りを持ち、皆さんの家族にも会社のファンになってもらいたい！



ご家族にも、社員の皆さんが頑張っている姿を伝えるツールとして



イベントや社内のトピックスを伝える情報共有の場として



社員同士のコミュニケーションツールとして

毎月発行します！

毎月20日に配布します。
まずはお手に取って、読んでみてください！

インタビュー

社員・工場紹介や家族へありがとう、皆さんおすすめのお〇特集まで、幅広い企画を実施します。

コンテンツ

楽しく読み応えのある社内報になるよう、ご協力よろしくお願いいたします！



楽しく読み応えのある社内報になるよう、ご協力よろしくお願いいたします！

こちらのQRからご応募ください！



社内報のタイトル大募集！

創刊にあたり、社内報タイトルを皆様から募集します！愛着の湧くタイトル、センスの光るタイトル、語呂の良いタイトルなど……。何度でも投稿可能ですので、どしどしご応募ください。



応募期間 1/20 (水)～2/19 (金)